

ICP DAY5 レッスン21

## ONE-ON-ONE RETENTION (ワンオンワンリテンション)

---

COMBATIVESのクラスに来る多くの生徒は、自信をつけたい、強くなりたい思いを持っている事が多い。



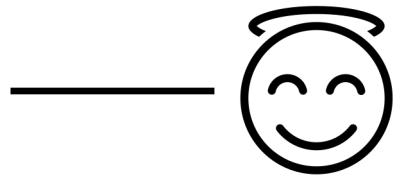
自分の「できていない」部分を埋めようとする段階。

なので、思っていた通りいかない時は、  
「自分に向いていない」と思い諦めやすい状態。

クラスの後には、この2つの事が起こります。



「僕・私もできる！」



「なぜ、僕・私はここに  
いるんだろう...。」



初心者の生徒は、自分が「よくできてるか、どうか」  
自分の成果がよく分かりません。



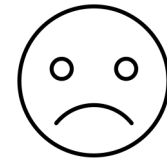
その成果の指標を示すため、  
インストラクターは存在します

生徒は毎回テクニックの練習をするとき、  
インストラクター視線を気にかけています。



生徒が正しいことをしていても、それをインストラク  
ターが困った顔で見ているなら、

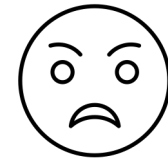
「僕は、間違っているんだ」  
—— という思いになります。



生徒が、柔術を続けるかやめるかは、



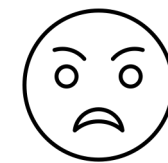
この交流は、生徒にクラスの後、ポジティブな気持ち  
を与えることができます。



~~さらに交流~~によっては「なぜ、ここにいるのか...」とい  
うネガティブな気持ちを与えることもできます。



インストラクターのよくある失敗



## 60/40 PULL VS PUSH

生徒が技をやっている時、

60%は正しくできている

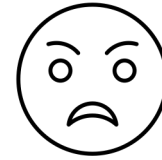
40%は間違っていてやっている

---

あなたは、どちらにフォーカスしますか？



インストラクターのよくある失敗



多くのインストラクターは、  
40%の方にフォーカスします。

正しくない40%を、100%正しくしようと指導します。

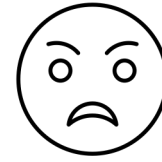
しかしそれは、インストラクターは間違った40%しか  
見ていないからです。

生徒は冒頭であった「できない部分」の40%を見ます。





インストラクターのよくある失敗



間違った部分ばかりにエネルギーを注ぎ、フォーカス  
しますか？

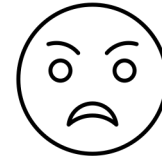
GOODインストラクターは、間違った部分を見ます。

BESTインストラクターは、正しい部分を見ます。

★★★



インストラクターのよくある失敗



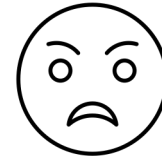
今日から、クラスで生徒が技を間違っているとしても、  
60%の正しい方を見ましょう。

60%の方を見ながら、**褒めること**

———  
これがとても大切です。



インストラクターのよくある失敗



ただし、褒めることを偽ってはいけません。

誠実に、本音であることが大切です。

時々、生徒は、全て間違ふことがあります。

正しい所を見つけにくく、褒めにくいときがあります。

UJCには、色々なタイプの人があります。

目の前にいる生徒は、道場まで来て、  
初対面かもしれないパートナーと協力し合って

—— 柔術を学んでいます。

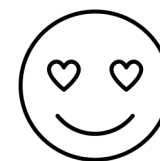


これだけでも、称賛にするのではないのでしょうか

生徒は、そのクラスを1、2回受けただけでは、100%  
正しくはできません。

100%に近づくためには、クラスを何度も受ける  
必要があります。

—— インストラクターの役割は  
「良かった、またもう1回やりたい」  
という気持ちを与えることです。



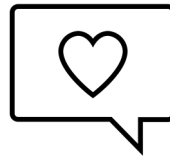
この考え方は、  
「今日、明日100%できる」ということではなく  
クラスを多く受ければ、100%に近づくことができる  
ということです。

—



今日も  
楽しかった

良くできた



またやりたい

—